科目名	歴史学							学 期	前期
副 題	ー				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G2-12-160	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	ー

授業の目的と概要
本講義の目的は二つからなる。前半では、中世前期の高野山をめぐる諸問題について学び、町石の造立をめぐる歴史、高野山と公武権力との関係、金剛三昧院・一心院の創立について理解を深める。後半では、近世における歴史学の発達について学び、『大日本史』の編纂過程、佐々宗淳の史料採訪を通して、史料批判の発達、史料調査の意義について考える。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標
①中世前期の高野山について、政治史との関係を踏まえて説明できる能力を身につける。 ②歴史学における史料の重要性について説明できる能力を身につける。 ③研究史の重要性、史料調査の意義について、理解できるようになる。

授業計画
1. 高野山町石をめぐる歴史と文化①―卒塔婆造立の功徳と弘法大師信仰―
2. 高野山町石をめぐる歴史と文化②―中世前期の高野参詣―
3. 高野山町石をめぐる歴史と文化③―鎌倉時代の高野山と安達泰盛―
4. 高野山町石道を歩く
5. 北条政子と高野山①―源氏三代と高野山―
6. 北条政子と高野山②―貞暁と一心院―
7. 北条政子と高野山③―金剛三昧院の造立をめぐって―
8. 高野山金剛三昧院の見学（多宝塔・経蔵・客殿など）
9. 高野山金剛三昧院の調査（金剛三昧院文書）
10. 『大日本史』の史学史的意義
11. 佐々宗淳による金剛寺文書・観心寺文書調査
12. 佐々宗淳による高野山文書調査①―『大日本史編纂記録』を通して―
13. 佐々宗淳による高野山文書調査②―『南行雑録』の価値―
14. 高野山霊宝館の見学
15. 高野山西南院の調査（西南院聖教）

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、中世史や史学史に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分） 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト
プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等
①上横手雅敬『鎌倉時代』（吉川弘文館、1994 年） ②山陰加春夫『中世の高野山を歩く』（吉川弘文館、2014 年） ③久保田収『近世史学史論考』（皇學館大学出版部、1968 年） ④但野正弘『新版佐々介三郎宗淳』（錦正社、1988 年）

学生に対する評価
レポート（100%） ※3000 字以上

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）中世前期の高野山や近世史学史に関する基礎的事項を理解している。
（B）高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容を踏まえて説明できる。
（A）高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容を踏まえて、具体的かつ論理的に論じることができる。
（S）高野山と公武権力の関係、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容のみならず、参考文献の読解や自己の調査を踏まえて、新たな問題提起ができる。

課題に対するフィードバックの方法
レポートについては、採点後に講評する。

その他
講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。 また、参考書や講義で紹介する論著を読み、歴史学の研究方法を自覚的に学ぶ意欲を持ってほしい。